

第7回四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会 記録

令和5年3月8日(水)午後1時30分～3時
四日市市役所3階 301会議室

出席：

委員：鬼頭会長、桐生副会長、朝倉委員、大井委員、瀬河委員、久志本委員、岡本委員、
諸戸委員、中森委員、伊藤委員、小松委員、大橋委員、廣瀬委員
秋田委員（欠席）

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 和澄

事務局：文化課 中野課長、葛山課長補佐、清水、石毛

TIT：池田、田中

（敬称略）

1. 開会

事務局：（開会）

出席の定員を満たしているで、会議が成立していることを報告する。（秋田委員は欠席となる。）

2. 部長あいさつ

部長：ご多用の中ご出席賜りましてありがとうございます。鬼頭会長におかれましては、3月5日に文化財講演会でお世話になりました。お忙しい中、講演会資料作成のため動画をとりながら東海道を走っていただきました。60名の参加で熱心に先生のお話を聞いておられたようでした。本日は、3年間協議いただいた地域計画の最終案を提示しています。協議会において意見をいただいて修正し、文化庁へ四日市市の案として認定申請を行っていくという運びとなります。この地域計画に基づいて管理者だけでなく、さまざまな団体など地域総がかりで貴重な文化財が継承されていくよう努めてまいります。なお、本日の会議をもって協議会を終了とさせていただきます。委員の皆さまにおかれましては熱心にご協議いただき、ありがとうございました。様々な不手際がありましたことをお詫び申し上げますとともに、感謝を申し上げます。今後もこの地域計画の進捗を見守っていただければ幸いです。

事務局：資料の確認をお願いしたい。これからの議事進行は鬼頭会長にお願いする。

3. 報告事項

パブリックコメントについて

会長：この計画策定はコロナと共に始まって、大変苦勞してようやくこういう形ができてきたので、十分協議して文化庁に提出できるようにしていきたい。私も文化財の保存に

ついて講演するとは想像してなかったが、情報共有できたことはありがたかったと思う。事項書に沿って進めていきたい。パブリックコメントでいくつかコメントが来ているので、説明をお願いします。

事務局：(資料説明)

会長：パブリックコメントで、なかなかいい提案をいただいているものもいくつかある。計画の中に反映していくということで、現在進行形で修正中だと思うが、汲み取っていただければと思う。意見への市の考え方について質問等ないか。なければ次に進める。

4. 協議事項

計画(案)について

会長：だいぶ分厚くなっている。説明をお願いします。

事務局：(資料説明)

会長：この計画全体について目次を追って説明いただいた。まだ目次、章立ては変わっていく感じか？

事務局：基本はこのままで行きつつ、修正はある。

会長：だいぶ完成に近づいて、読み物的に読んでいただいたかと思うが、質問などあればこの場で。

委員：細かいことだが、内部地区に住んでいるので拘るが、「うねめ」という言葉がたくさん出てくる。地名を表すときは「采女」、現住所は「采女」を使い、采女町である。その辺を統一しておいた方がいいかと思う。

事務局：修正する。

会長：細かい部分はたくさんあると思う。後でも指摘いただきたい。この資料は各地区の方には見ていただいているか。

事務局：ヒアリングした各地区の方々には見ていただいている。

会長：何部印刷する予定か。

事務局：文化庁認定後に300部の印刷を考えている。

会長：そこまでにはできるだけ修正をしていただければと思う。

委員：細かいところになるが、日本語で気になるところが何か所がある。p3の最後の段落のところ、「指定している指定登録の・・・」の「指定文化財を含めて」というのがちょっと通りが悪い。「指定している指定文化財に未指定文化財を加え両者を含めて」の方がいいかなど。P7の上から「地域の自然環境を大切にしながら～」とある。「大切に」が重複しているのが気になった。2番目の「重要性を示しています」とか。こういったレベルが気になった。あとは本当にたくさんの膨大な資料をよくまとめてられると思った。P156の「地域」、「テーマ」、「価値」のあたりが説明を伺いながら見ているとそうかと思うが、まわりにある多様な主体からの矢印がそこだけに刺さっていることが気になった。

市民団体はテーマに向かっているが、ほかのところにも関係するのではないか。全ての文化に関わるがそこだけに刺さっている矢印は本当にそれでいいのかと思った。まわりのいろんな主体の呼び方が専門家、大学、市民団体、ボランティアが別にあるが、本当はこの分け方でいいかと思った。なかなか難しいところだが、最初に言ったそれぞれの小さな丸が一つの場所にしか刺さっていないのが気になる。全体に主体がいて、3つの循環にみんなが関わっている感じにしたほうが良いように思う。矢印の意味は何か確認しやい。

会長：この矢印の意図はあるのか？

事務局：ご意見を聞いて、3つの輪のまわりに大きな輪を設けて、そこに刺さるようにしてはどうかと思った。「地域」「テーマ」「価値」がぐるぐる回っていくことで、全体にかかっているようにしたい。

委員：良いと思う。

会長：そのほうが良い。全体を束ねる丸があって、それに主体がかかってくると。皆さんよろしいか。あと、日本語の修正はたくさんあると思うのでメール等でどんどん指摘いただければと思う。

事務局：ご指摘いただければありがたいので、ご連絡いただければと思う。

委員：私も全部を読み込んでいないが、委員の言われたご意見と同じだ。大変な作業だったと思う。

委員：この地域計画を運用していくのにこれからが大変だと思う。パブリックコメントにもあった小学生から教育が必要。小学生に対してはもちろん当然だが、定年退職した方にも。人生100年時代にはいっていき、定年退職してからの人生の方が長い気がする。こういった方々をターゲットにしPR・周知して、市民講座とか講演会とか各地域でやるとかぐらいのことをやっていただきたいと思っている。

委員：感想になるが、パブリックコメントの中でもあった、目立つもの、いまどきのデザインがあるといいと思った。獅子舞は指定を受けているものもいくつもあるが、指定でないものもたくさんある。それらは、地域の宝として差がない。どの地域の人たちもこの地域計画を使えると思えるようになったらと思う。自分の地域にある文化財のことだとわかったらいいかなと思った。

委員：完成が見えてきた。大変な作業だったと思う。前回の会議後にメールでたくさん修正点を送った。ほぼ完ぺきに直っていた。1点だけお願いしたい。P29「霞ヶ浦遊楽園」は「遊園」が正式かと。現在の呼び方か昔のものなのか統一をお願いしたい。P144 関連文化財群6のお祭り。古河町の「河」が違う。調査をさせてもらったので思い入れがあって。修正については以上だ。全体に通して、思い付きだが、先日の文化財講演会の新聞記事に鬼頭先生のメッセージがあるが、ホームページの概略文とかに、メッセージがあったほうが良いと思う。スローガンみたいなもの。「つなげる」みたいな。それを再掲するなり、何かメッセージがあると市民にもう少し伝わるかと思った。その検討をお願いしたい。

会長：p92にある「文化財の保存と活用に関する将来像」ようなものか。この地域計画はいろんな地区ごとに歴史文化の特徴を細かくリストアップしてこういう形になっている。自分の地区には興味あるが、他には興味ないような方のためのまとめ方もあっていいと思う。市民センターでは、その地区の詳細版が配れるといいなど。メッセージも地区ごとにあれば、そういうものを掲げたものができるといいなどと思う。

委員：こちらの冊子を読ませてもらって、本当に知らなかったことがあった。これ1冊あれば文化財の勉強がばっちりできる。すばらしい冊子だと思った。P15の観光客数の箇所で、夜景クルーズについて「平成30年度以降が減少傾向」とあるが、減少傾向だと下火になってきたという感じで、雰囲気的に興味がなくなってきたと捉えられがちだが、燃料が高騰して何便も出せなくなったのもある。便数が出せないで、乗せる人数が減る。最大35人しか乗れないため、出航する回数が少ないと単純に乗客数が減った。夜景クルーズの内容は充実してきている。待合所もつくり直して車イスの方のスロープ、トイレも改修し、待っている方のためにTVもつけて、四日市市外の方にもクルーズに来ていただけるようになった。「減少傾向になっています」で終わるのではなく、「減少傾向だが、内容を充実していています」としてほしい。

会長：これはたぶん、平成30年以降、減少と言ってもコロナでほぼできなかったのもあると思うので、令和元年でちょっと減っているのは便数を減らしたということか？

委員：正確には調べないとわからないが。

会長：5,000人を越えていたのが令和元年でたまたま下がっていたのかもしれないが。

委員：減少傾向でまとめるのはさみしいなど。

会長：夜景クルーズももはや一つの伝統行事的になっていて、全国から来る方も多いため、数字的にはコロナで減少傾向なのだと思うが、これからまた増えてくると思う。付加価値をつけていくこともできると思うし、ずっと続いていくものと思う。このあたりを気にした記述にしてもらいたい。地域計画を観光協会も活用して、企画を立てていく実行部隊の中心になっていくと思うので、お願いしたい。

委員：よくがんばって作られたので、もうひと踏ん張りしてほしいところ。第7章「文化財の保存・活用の推進体制」の言い回し。推進体制の全体に、主語が行政になっている文章がたくさんある。地域で行政がしていくことがある。行政としてやることをはっきりと区別するといいかと思う。あと、細かい話だが、第7章の中で「民間、企業、事業者」がバラバラと出てくる。同じことなのかと思うので、統一したほうがすっきりするかと思う。「地域そりがかりの文化財の保存・活用を実現する3つの視点」図は、皆さんが言われるように、「地域総がかり」図と「保存・活用のための4つの方策」図は、同義の図のはず。内容的には「4つの方策」図がベースに、もうちょっとエリア、範囲を大きく捉えたのが「地域総がかり」図になると思う。整合性を考えて、「地域総がかり」図にまで展開してくという図にした方がいいかと思った。

委員：非常にたくさんの文化、自然をよくまとめてあると思う。大変な労力がかかっているのはわかった。p2進捗管理があって、見直しが令和11年になっている。最後の7章

の推進体制と進捗管理がどのようにつながるのか。つながることが必要かどうかもあるが、いろんな取組みを実施していく中で地域からの要望も出てきたりすると思う。また、パブリックコメントでも負の文化遺産と出ているが、「文化の事象でない」と答えていいのかと思った。戦争や公害も文化財の、四日市特有の現象だと思う。歴史的な文化財に入ってくるのではないかと思った。市の推進体制の中にも環境部があるが、自然に関わる歴史文化遺産の保護とかがあり、この辺のことも考えると公害は文化の事象として捉えた方がいいかと思った。

事務局：戦争、台風、公害については、現在は市の歴史的背景と地区の特徴に書いている。廣瀬委員の言われた戦争、台風、公害が生じたことを文化と認めないのでなく、出来事自体は文化の事象でないということ。戦争で生じた何かとか、伊勢湾台風を乗り越えた堤防とか、なんらかの取り組みの物や形として残るものは文化財として扱うが、出来事自体は文化ではない、というお答えをした。あった事はあった事で背景としてあるが、そこから生じた物事を扱っていくことになると思っている。背景にあるものが全て文化財ではないと文化庁から指摘いただいていた。

委員：観光交流課として修正は特にない。観光協会からあったが、我々としては文化財を活用してくというのが重要で、これだけ地域資源があると認識している。地域資源を観光資源に換えていく、交流を促していくことが大事だと思う。良いものを作っていたいた。

委員：様々なご意見をいただき、お礼申し上げます。いい訳になるが、深く難しいところにまで文言がわたるので、「てにをは」までの修正に至っていないところもまだ多くある。気持ちをリセットして調整していきたい。委員からもあったが、文化分野がシティプロモーション部に編成されたことを重く受け止めている。文化財の保存一辺倒だったことを活用するようにし、一つ一つの関係を汲んで、希薄になった人のつながりをしっかりと再構築していくものにしたいと思っている。観光だけではなく、文化、スポーツをどう絡めていくか。シティプロモーションを推進していく中で、時には一緒に汗をかいてPRして、という展開は旗振り役として行っていきたい。冒頭でも申し上げたが、文化庁に認定申請というところまで時間があるので、精査をして、出来上がった暁には、修正点が1か所もないような精度に仕上げしていきたい。引き続きメール、電話でもかまわないので、ご意見を賜りたい。よろしくお願ひしたい。

会長：一通りご発言いただいた。気になったのは、文化財を保存している限りには、市内のものを保存していくと時に桑名・鈴鹿と関わらなくても保存できたが、地域計画での活用となると、関連する文化財をもつ市町の連携はあるか。

委員：文化財について、四日市だけで終始しているものもあれば、いろんな関係の中で育まれているものもある。観光でも広域連携が大事というところ。四日市市は観光資源が乏しく、ナイトクルーズがようやく誇れる観光資源。では市民が乗ればいいのか。市外県外から取り込むことを心がけていて、乗ってくれている人の6-7割が市外県外からになっている。関連性があるところは広域で広がりをもって展開すると広がると感じてい

る。北勢エリアの連携をと思っている。観光で文化というエッセンスを落とし込める要素もあるので、そういう活用も四日市市が持ち掛けて何かするのも効果があると思う。まずは四日市市における下地をつくって、他の市町でもつくる時に連動連携を図っていったらと思う。

会長：地域計画の所々に市外のこと出てくる。関係するなら遠慮せず書いてはどうか。そうすれば、外からも連携しましょうとなると思う。横で連携してることが地域の魅力を深めていくと思う。

副会長：立派なものできて、地域計画をどう具体的に活用していくか。会議で話していた、目指すものが実現するのかどうか。各地区の数は24あって、各町の数はいくつあるのか。采女町とか、南小松町とかは、町ごとに昔からいろんな行事をしてきた。私は鈴鹿市に住んでいるが、私の町は、昔からの行事を割ときちっとしているところ。ただし、年々住民の関心が薄くなってきた。昔からの行事がどういう状態なのか、調査もしていない。後で気が付いたが、この地域計画を策定するのに調査が欲しかった気がする。どこもだんだん地域自体が、住んでいる人の意識が薄れてきているのではないかと思う。そうなる保存と継承とが難しくなってくる。各地区の状況を掴むため、機会があったらヒアリングを行ってはどうか。

事務局：令和2年度・3年度のヒアリングの目的として、地区の皆さんが大切にしているお祭りも含めて文化財を伺った。以前はあったものもあり、盆踊り、祭りも昔は行っていたが、今はしていないとか、リストにして欲しいと言われたものは挙げている。ただし、地区で言われたところ、言われなかったところもある。

会長：調べてきたリストがあって、その中に地域に伝えられている行事もあつたりもする。

副会長：有名な行事だけでなく、各地域の取り組みひとつひとつを大事にしてほしい。

会長：地域計画策定のために調べたことで終わりではなく、これをきっかけに地域で掘り起こす文化財も出てくるし、普通に生活で使っているものも、無くなって初めて文化財的なものと感じるものもあるかもしれない。私はいま福井に家をつくっているが、棚田があつて、復活したいと思っている。棚田は地域の方も「あれよかったね」と話している。文化財と思っていないものも、これからもどんどん積み上げていくことなのかなど。地域の民謡なんかも、そのまま謡われなくなって消えてしまったものもたくさんあると思う。そういうものも活用してだけでなく、それをリスト化していく仕組みも大事かなと思う。リストを地区の方に見せると「こういうのがあるよ」となってくるのでお願いしたい。ほかに何かあれば。

委員：今のお話に関連して、P77に市政ごいけんばんアンケートの結果があるが、およそ76%が歴史文化に関心があると答えている。総論として関心はあるのに、自分の地区には個別の文化財があることを知らなかったとか、身近に機会がないとか、継承されていないと思っていると、若い人は自分事として捉えるチャンスがないのだと思う。文化財は大事だからとか、前からやっているからとか言われても、「じゃあやろうか」とはならない感じがする。価値観の変化もあり、その良い面と悪い面があると思うが、今は個人の

考え方を大切にするようになっており、押し付けられてもやらないとも思われる。そういう世の中の価値観の変化がある中で考えていけないといけないと思う。地域計画をつくるためにヒアリングした人たちは文化財に関わっているのに、文化財を大切に思っているが、多くの人は思っていないのであろう。そういう時に文化財の保存・活用の計画と言われても、このように分厚い冊子を隅々まで読まないと思う。これからの若い人にどう関心を持ってもらうのか。教育関連で言われていたが、自分事に関係する取り組みが大事だと思う。ロゴとかデザインとかで伝えて行く時に「皆で伝えましょう」とか、自分が関わって面白いと思うとっかかりをつくっていくのも大事かと思った。文化財を「守りましょう」から入ると現実問題難しいので自分がやったことが結果的に守ることにつながって、小さいこと、したいことから始めるという回路の変更が必要なのかなと思う。デザインのこともそうだし、関わりをつくっていくとか、情報発信もそうだし、市民が発信者になるようなSNSも若い人がインスタグラムにオシャレに魅せるようなもの。ちゃんと他の人に伝えようとするとう聞かないとできないので、聞きに行くと面白さに気づくような機会をつくる必要があるかなと思う。私の大学の学生も文化財関係者と話すと「楽しい」と言って聞くので、大切かなと思う。

会長：若い世代の関心をどう惹くのか、どういう計画でも難しい課題。防災でも、お祭りでもそう。高校生、大学生が関わってくると発信力が強い。文化財は古いものと高齢の方がしていたものと思うかもしれないが、当時の若い人がやっていた素敵だと思えるものがあつたはずなので、当時のことが一緒に伝わっていくと、共感を呼ぶようになると思う。活用して行く中で若い人を取り込んでいく工夫をし、これからの活用の面で、勉強会とかで、高校生、大学生とかを主体として参画させる仕組みをもつとよいと思う。行政のメンバーでも若い人を入れることもよくあるので、若い人が文化財を活用する工夫も必要かなと思う。

副会長：若い方を引き込むこと、言葉では簡単に言うが現実にはどうするかは非常に難しい。まずは各地域で若い人を引き込まないと、知らない所から若い人を引き込むのは現実的に難しい。地域の力を、小さい力を借りてやっていけないとできないのでは。なんとか若い人に理解してもらって、地域計画の取組みにしていく。世の中が変わって、仕方ないが。保存活用計画をやるうというなら覚悟してやらないと、なかなか難しいと思う。

会長：いろんな方を巻き込んで、発展していくのが願いだと思ふ。それが実現していけばと。ご意見をいただいて計画に反映するかたちでまとめていただければと思う。

委員：100年前に内部線が延伸する予定で工事して、その跡が今も残っている。若い人が関心を持って聞いてくれる。そういう仕掛けは良いのではないか。外国の方、特にオーストラリアの方が興味を持った。100年だと、十分文化財になる。グローバル化もどこかで考えていけないといけない。ネット配信もあるし、世界中に広げてもらえたら。

会長：多言語化も。看板とか。

事務局：看板の取組みで、多言語化をあげている。ただグローバル化は考えていなかった。

シティプロモーションの観点もあるので考えたい。県外、世界へ発信するというのは良いことだと思う。

委員：世界とつながりについて、四郷地区等の製茶製紙等は元は輸出のために始まったもの。日本酒等も港から東京に行って着く頃においしくなっているとか。いろんなどころがつながっている。三重県では忍者のつながりで、伊賀甲賀が日本遺産になっている。世界を意識して、そういうことはできるかなと。「文化財の保存と活用に関する将来像」が変わってしまいそうだが。一つ確認したい。6つの関連文化財群と2の保存活用区域では、具体的にエリアを指定している。四郷は問題にならないが、富田・富洲原の海沿いは、海拔は何mか。津波とかがあった場合、そこに人を集めることになるので、文化財保存活用区域の課題と方針で一言触れているが、防災の課題としてもうちちょっと書いておいた方が良い気がするがどうか。具体的に方策を立てていかないといけないかと。

事務局：漁師町の歴史文化 富田富洲原。防災も書いているが、委員からの指摘もあったので、鬼頭会長と相談して追加したい。

会長：浸水域にはなっている。観光協会も津波の時はどうするのかというマニュアルもある。それを周知しながらイベントするという方が良い。

委員：他の事例だと具体的に避難案場所を載せている。ご検討を。

会長：ウォーキングだとトイレ、食事の場所を記載するのでそれと併せて、「ここは危険なので警報が出たらここに」という周知は並行してやっていかないといけない。

5. その他 今後のスケジュールについて

事務局：令和5年度文化庁に認定申請をし、認定を受けたい。その後、12月あたりに地域計画についての市民、市外へ広く伝えるシンポジウムを開催したいのでよろしくお願ひしたい。なお、今回の会議をもって、この協議会は終了になる。今後は評価委員会を立ち上げる予定があり、その際にはお願ひもあると思うのでご承知おきいただきたい。

6. 閉会

事務局：(閉会)

以上